

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

## 受け手による犯罪報道への評価

著者	大谷 奈緒子, 四方 由美, 北出 真紀恵, 小川 祐喜子, 福田 朋実
著者別名	Naoko OTANI, Yumi SHIKATA, Makie KITADE, Yukiko OGAWA, Tomomi FUKUDA
雑誌名	東洋大学社会学部紀要
巻	56
号	2
ページ	125-136
発行年	2019-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00010429/">http://id.nii.ac.jp/1060/00010429/</a>

## 受け手による犯罪報道への評価<sup>1</sup>

### Audience Evaluation of Criminal Reports

大谷奈緒子	Naoko OTANI
四方 由美*	Yumi SHIKATA
北出真紀恵**	Makie KITADE
小川祐喜子***	Yukiko OGAWA
福田 朋実****	Tomomi FUKUDA

#### 1. はじめに

犯罪報道研究においては、報道される者の人権やプライバシーという観点からの議論が中心として行われてきた経緯があり、実証研究や効果に関する研究は十分でないと指摘されてきたが（牧野智和2012）、近年、多方面から実証研究が行われるようになってきた。筆者らも、フレーミング分析、共起ネットワーク分析などを用いて犯罪事件報道の数量的・質的分析を行い、実証研究の蓄積に寄与している（島崎哲彦ら2012、大谷奈緒子ら2015、四方由美ら2018など）。

ただし、これらの実証研究は、事件報道の内容分析や、その結果に基づき報道倫理を論じたものであり、報道の受け手である読者や視聴者が犯罪報道をどのように受容しているかについての研究や、受け手への報道の影響を分析した研究は数少ない<sup>2</sup>。そこで本研究は、1）報道内容の数量的分析、2）報道の受け手への調査（読者や視聴者が報道をどのように捉え、評価しているのか）、3）報道の送り手調査（犯罪報道がどのように生成・伝達されるのか）、の3つの側面からアプローチを行

---

\* 四方由美 宮崎公立大学

\*\*\* 小川祐喜子 東洋大学

\*\* 北出真紀恵 東海学園大学

\*\*\*\* 福田朋実 宮崎公立大学、東洋大学現代社会総合研究所

1 本研究は2016年～2019年度科学研究費補助金（基盤研究（C））（研究代表者 四方由美）、研究課題「犯罪報道におけるジェンダー問題に関する実証的研究」の研究成果の一部を発表するものである。本研究の構成員は、共著者の他に、国広陽子（武蔵大学）。

2 その一つである大谷奈緒子らの研究（2016）は、受け手を対象とした質問紙調査を実施し、人びとが犯罪報道をどのように捉え、解釈し、評価しているのか把握するとともに、犯罪報道の評価と犯罪不安感との関連について分析している。他に、犯罪報道と犯罪不安に関する調査として、阪口祐介（2008）などがある。

い、犯罪報道についての多角的な実証研究を目指すに至った。本稿は、2) 報道の受け手調査として行った「マスコミ報道についての意識調査」(2018年5月)の結果から、犯罪報道の評価に関する分析をまとめたものである。

なお、本研究は、犯罪報道におけるジェンダー問題を探求する視座を持つ。よって、本調査においては、「殺人事件の報道」に加えて、ジェンダー問題が関与すると考えられる「性犯罪事件の報道」、および「幼児虐待事件の報道」に対する評価を調査項目に設定している。「犯罪報道の中で、被疑者や被害者の性別による報道の違いを感じたことがあるか」を問う項目も設けている。これらは、先行研究において四方由美(2014)が問題提起している女性被疑者・女性被害者への厳しい報道の在りようについて、受け手がどのように評価をしているか知ることを射程に入れたものでもある。

一方、昨今、ジェンダー問題に関していくつかの動きがみられる。とりわけ性犯罪に関しては、SNSに端を発する「# Me too」の呼びかけが世界的に波及し、性暴力に対抗する大きなムーブメントとなっている。日本では、2017年に100年ぶりに刑法における強姦罪が見直され、改正、厳罰化された。また、事件の当事者が情報発信するケースもみられる<sup>3</sup>。こうしたなかで実施する調査として性犯罪やジェンダー問題への受け手の認識を分析したい。

## 2. 調査の概要

本稿は、「犯罪報道とジェンダー研究会」が2018年5月24日から5月28日にかけて実施したインターネット調査「マスコミ報道についての意識調査」の一部のデータを用いている。本調査は、調査会社(調査会社マクロミル)のウェブサイト上において、マクロミルにモニター登録している、首都圏50キロ圏内在住の20歳以上79歳以下の男女を対象に実施した。調査対象者の内訳は、男性、女性それぞれ20歳代が83人、30歳代が83人、40歳代が84人、50歳代が84人、60歳代が83人、70歳代が83人(男性500人、女性500人:合計1,000人)である。なお、調査項目作成後、実査に至るまでのアンケート画面の制作および調査実施の広報ならびに結果の回収は、(株)サーベイリサーチセンターへ業務委託した。

調査の項目は、「メディア接触」「基本属性」「犯罪報道に対する認識と被害経験」「マスコミやインターネットに対する意見」に加え、女性がかかわる事件の報道評価を尋ねる項目として、「殺人事件の報道についての意見」「幼児虐待事件についての意見」「性犯罪事件についての意見」などから構成した。

---

3 性犯罪被害者である小林美佳氏(小林美佳2008)など。ジャーナリストから性被害を受けたとして告発した伊藤詩織氏の例は記憶に新しい(伊藤詩織2017)。

### 3. 犯罪報道の評価

殺人事件、性犯罪事件、幼児虐待事件の報道に関する意見について、「とてもそう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の5尺度で回答をしてもらった結果から、受け手の各事件報道の評価について検討する。さらに、それぞれの意見をスコア化（「とてもそう思う」は2点、「まあそう思う」は1点、「どちらともいえない」は0点、「あまりそう思わない」は-1点、「全くそう思わない」は-2点）し、各事件の報道への意見について比較を行った。さらに、個人的な情報やプライバシーに関する報道についても検討した。

#### （1）殺人事件の報道への評価

表1は、民間の人物にかかわる殺人事件の報道に関する意見を尋ねた結果である。「とてもそう思う」が最も多いのは「事件が興味本位で伝えられている」（19.3%）で、以下、「社会全体の治安悪化を感じさせる」（18.1%）、「独自取材による報道が少ない」（14.0%）、「容疑者を犯人と決めつけている」（13.6%）と続く。他方、「あまりそう思わない」が多いのは、「被害者のプライバシーや人権に

表1 殺人事件の報道についての意見

	とても そう 思う	まあ そう 思う	どちら とも い え ない	あ ま り そ う 思 わ ない	全 く そ う 思 わ ない	平均 スコ ア	標準 偏差
a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている	2.5%	32.7	39.2	21.4	4.2	0.08	0.896
b 事実を正確に伝えている	2.9	31.0	42.4	18.7	5.0	0.08	0.898
c 事件が興味本位で伝えられている	19.3	44.7	27.4	7.4	1.2	0.74	0.895
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	2.5	24.7	44.2	24.2	4.4	-0.03	0.874
e 容疑者を犯人と決めつけている	13.6	42.6	36.8	6.1	0.9	0.62	0.827
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	6.8	41.9	39.2	9.9	2.2	0.41	0.842
g 独自取材による報道が少ない	14.0	34.5	40.3	9.3	1.9	0.49	0.911
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	10.1	28.6	42.2	15.4	3.7	0.26	0.962
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	5.9	25.0	39.6	19.0	10.5	-0.03	1.047
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	10.0	37.6	40.3	9.0	3.1	0.42	0.901
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	7.2	34.3	41.1	12.5	4.9	0.26	0.940
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	5.8	21.7	38.0	25.6	8.9	-0.10	1.026
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	2.3	19.2	31.2	28.4	18.9	-0.42	1.070
n 社会全体の治安悪化を感じさせる	18.1	40.3	31.2	8.8	1.6	0.65	0.929

表2 殺人事件についての意見に関する因子分析 (回転後の因子行列<sup>a)</sup>)

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
b 事実を正確に伝えている	0.753	0.066	-0.100	0.148
a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている	0.701	0.136	0.004	0.006
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	0.586	0.111	-0.079	0.075
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	0.427	0.116	0.196	0.233
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	0.408	0.273	-0.336	0.404
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.136	0.920	0.076	0.009
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.122	0.495	0.229	0.282
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.223	0.463	-0.037	0.260
c 事件が興味本位で伝えられている	-0.189	0.027	0.553	-0.146
e 容疑者を犯人と決めつけている	-0.017	0.035	0.496	-0.131
g 独自取材による報道が少ない	-0.013	0.043	0.492	0.215
n 社会全体の治安悪化を感じさせる	0.122	0.078	0.317	0.175
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	0.207	0.091	-0.143	0.615
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.026	0.227	0.207	0.450

因子抽出法：主因子法、回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法。

a. 5 回の反復で回転が収束。

配慮している」(28.4%)や「被疑者のプライバシーや人権に配慮している」(25.6%)などのプライバシーに関する意見で、その他、「事件の問題点や背景にせまって報じている」(24.2%)、「自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている」(21.4%)である（表1参照）。

殺人事件の報道に関する意見、14項目（表1のa～n）について因子分析を行ったところ、4つの因子が抽出された。第1因子は「b 事実を正確に伝えている」「a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている」「d 事件の問題点や背景にせまって報じている」などから構成される“報道内容に関する意見”である。第2因子は「k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い」からなる“プライバシーに関する意見”、第3因子は「c 事件が興味本位で伝えられている」「e 容疑者を犯人と決めつけている」「g 独自取材による報道が少ない」「n 社会全体の治安悪化を感じさせる」からなる“報道姿勢、治安悪化の認知”、第4因子は「l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している」「h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い」という“被疑者報道への意見”となる（表2参照）。

## （2）性犯罪事件の報道への評価

表3は、性犯罪（強制わいせつ、強姦など）の事件報道に関する意見を尋ねた結果である。「とて

表3 性犯罪事件の報道についての意見

	とても そう 思う	まあ そう 思う	どちら とも いえ ない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない	平均 スコ ア	標準 偏差
a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている	1.1%	23.8	46.2	23.9	5.0	-0.08	0.846
b 事実を正確に伝えている	1.6	22.3	47.4	23.1	5.6	-0.09	0.857
c 事件が興味本位で伝えられている	18.8	44.5	29.4	6.7	0.6	0.74	0.859
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	2.1	17.1	45.2	29.4	6.2	-0.21	0.869
e 容疑者を犯人と決めつけている	10.7	40.8	40.9	7.0	0.6	0.54	0.799
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	5.6	43.0	39.5	10.1	1.8	0.40	0.815
g 独自取材による報道が少ない	11.2	37.6	41.7	8.2	1.3	0.49	0.847
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	8.9	28.7	42.0	16.9	3.5	0.23	0.950
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	11.2	33.4	37.6	13.2	4.6	0.33	0.994
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	8.9	35.7	44.3	9.1	2.0	0.40	0.849
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	10.0	36.8	39.8	9.9	3.5	0.40	0.921
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	4.2	24.3	41.1	22.8	7.6	-0.05	0.970
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	4.0	23.9	34.3	24.4	13.4	-0.19	1.069
n 性犯罪事件の報道は被疑者に厳しい	7.7	28.2	35.4	21.6	7.1	0.08	1.042
o 性犯罪事件の報道は被害者に厳しい	9.6	25.1	44.3	17.6	3.4	0.20	0.953
p 社会全体の治安悪化を感じさせる	20.1	38.8	31.7	7.6	1.8	0.68	0.939

もそう思う」という意見が多いのは、「社会全体の治安悪化を感じさせる」（20.1％）と「事件が興味本位で伝えられている」（18.8％）である。「事件が興味本位で伝えられている」は「まあそう思う」の回答も多く、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた“そう思う”は7割弱を占める。その他「まあそう思う」の回答が多い意見は、「警察など公的な発表にもとづく報道をしている」（43.0％）と「容疑者を犯人と決めつけている」（40.8％）である。

他方、「あまりそう思わない」が多いのは、「事件の問題点や背景にせまって報じている」（29.4％）、「被害者のプライバシーや人権に配慮している」（24.4％）、「自ら（あなたご自身）が事柄を伝えている」（23.9％）、「事実を正確に伝えている」（23.1％）、「被疑者のプライバシーや人権に配慮している」（22.8％）、「性犯罪事件の報道は被疑者に厳しい」（21.6％）である。また「被害者のプライバシーや人権に配慮している」は、「全くそう思わない」（13.4％）の回答も多く、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”が4割弱を占めることから、性犯罪事件の報道について受け手は、被害者のプライバシーに対する配慮が十分でないと考えていることが

表4 性犯罪の報道についての意見に関する因子分析 (回転後の因子行列<sup>a)</sup>)

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.791	0.077	0.042	0.173
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.728	0.068	-0.012	0.223
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.645	0.074	0.330	-0.081
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	0.491	0.450	-0.290	-0.064
b 事実を正確に伝えている	0.090	0.772	-0.077	0.043
a 自ら (あなたご自身) が知りたい事柄を伝えている	0.018	0.729	0.024	0.051
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	0.023	0.666	-0.032	-0.043
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	0.255	0.411	0.212	0.041
c 事件が興味本位で伝えられている	-0.047	-0.226	0.486	0.346
o 性犯罪事件の報道は被害者に厳しい	-0.084	-0.014	0.470	-0.055
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.406	0.081	0.442	-0.240
p 社会全体の治安悪化を感じさせる	0.106	0.097	0.420	0.009
g 独自取材による報道が少ない	0.158	-0.061	0.406	0.168
e 容疑者を犯人と決めつけている	0.097	0.017	0.235	0.495
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	0.339	0.337	0.153	-0.464
n 性犯罪事件の報道は被疑者に厳しい	0.135	0.128	-0.051	0.406

因子抽出法：主因子法、回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法。

a. 5 回の反復で回転が収束。

わかる (表3 参照)。

次に、性犯罪事件に関する意見、16項目 (表3 の a～p) について因子分析を行ったところ、4つの因子が抽出された。第1因子は、「k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い」「j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「m 被害者のプライバシーや人権に配慮している」から構成される“プライバシーに関する意見”である。第2因子は、「b 事実を正確に伝えている」「a 自ら (あなたご自身) が知りたい事柄を伝えている」「d 事件の問題点や背景にせまって報じている」「f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている」からなる報道内容への“事実報道に関する意見”、第3因子は「c 事件が興味本位で伝えられている」「o 性犯罪事件の報道は被害者に厳しい」「h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い」「p 社会全体の治安悪化を感じさせる」「g 独自取材による報道が少ない」からなる“報道姿勢、治安悪化の認知”、第4因子は「e 容疑者を犯人と決めつけている」「l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している」 (-0.464)、「n 性犯罪事件の報道は被疑者に厳しい」からなる“被疑者報道への意見”といえる (表4 参照)。



## (3) 幼児虐待事件の報道への評価

表5は、幼児虐待事件の報道に関する意見を尋ねた結果である。「とてもそう思う」は、「社会全体の治安悪化を感じさせる」(20.1%)で多い。次に、「まあそう思う」が多い意見は、「警察など公的な発表にもとづく報道をしている」(42.8%)、「容疑者を犯人と決めつけている」(39.6%)、「事件が興味本位で伝えられている」(36.1%)、「社会全体の治安悪化を感じさせる」(35.2%)である。そのうち「社会全体の治安悪化を感じさせる」は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた“そう思う”が過半数を占めることから、幼児虐待事件に関する報道によって、人びとは社会の治安悪化を感じていることがわかる。

他方「あまりそう思わない」は、「被害者のプライバシーや人権に配慮している」(24.9%)、「事件の問題点や背景にせまって報じている」(24.4%)、「被疑者のプライバシーや人権に配慮している」(22.3%)、「幼児虐待報道は父親(継父含む)に厳しい」(21.2%)、「被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い」(20.3%)、「被害者は、実名よりも匿名による報道が多い」(20.0%)で2割を超え

表5 幼児虐待事件報道についての意見

	とても そう 思う	まあ そう 思う	どちら とも いえ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い	平均 スコ ア	標準 偏差
a 自ら(あなたご自身)が知りたい事柄を伝えている	2.5%	31.9	42.6	18.3	4.7	0.09	0.884
b 事実を正確に伝えている	2.6	33.4	43.3	17.5	3.2	0.15	0.849
c 事件が興味本位で伝えられている	12.0	36.1	39.2	11.6	1.1	0.46	0.887
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	4.0	22.8	43.5	24.4	5.3	-0.04	0.918
e 容疑者を犯人と決めつけている	8.1	39.6	43.6	7.3	1.4	0.46	0.800
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	6.9	42.8	40.6	7.5	2.2	0.45	0.817
g 独自取材による報道が少ない	10.1	33.0	45.3	10.5	1.1	0.41	0.848
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	6.4	24.4	44.9	20.3	4.0	0.09	0.925
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	5.0	26.6	41.3	20.0	7.1	0.02	0.975
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	6.6	30.6	49.0	11.4	2.4	0.28	0.839
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	5.4	30.2	46.4	13.5	4.5	0.19	0.894
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	4.7	20.3	47.3	22.3	5.4	-0.03	0.911
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	3.2	20.9	40.1	24.9	10.9	-0.19	0.993
n 幼児虐待報道は父親(継父含む)に厳しい	4.7	20.9	47.8	21.2	5.4	-0.02	0.909
o 幼児虐待報道は母親(継母含む)に厳しい	5.9	20.8	49.0	18.8	5.5	0.03	0.923
p 社会全体の治安悪化を感じさせる	20.1	35.2	35.0	7.3	2.4	0.63	0.962



表6 幼児虐待事件の報道についての意見に関する因子分析 (回転後の因子行列<sup>a)</sup>)

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.682	0.098	0.096	0.108
i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.659	0.155	0.110	0.020
j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い	0.654	0.037	-0.021	0.314
h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い	0.602	0.037	-0.062	0.229
m 被害者のプライバシーや人権に配慮している	0.600	0.314	0.127	-0.284
l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している	0.546	0.199	-0.032	-0.038
b 事実を正確に伝えている	0.109	0.862	0.043	0.007
a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている	0.104	0.738	0.015	0.068
d 事件の問題点や背景にせまって報じている	0.201	0.552	0.145	-0.064
f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている	0.241	0.439	0.066	0.305
n 幼児虐待報道は父親（継父含む）に厳しい	0.070	0.102	0.859	0.104
o 幼児虐待報道は母親（継母含む）に厳しい	0.050	0.086	0.830	0.123
g 独自取材による報道が少ない	0.128	-0.013	-0.004	0.483
e 容疑者を犯人と決めつけている	-0.011	0.116	0.221	0.435
c 事件が興味本位で伝えられている	-0.077	-0.174	0.152	0.401
p 社会全体の治安悪化を感じさせる	0.141	0.124	-0.033	0.399

因子抽出法：主因子法、回転法：Kaiserの正規化を伴うバリマックス法。

a. 6回の反復で回転が収束。

る。そのうち、「被害者のプライバシーや人権に配慮している」については「全くそう思わない」（10.9%）の意見も多く、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”は3割を超える（表5参照）。

幼児虐待事件の報道に関する意見、16項目（表5のa～p）について因子分析を行ったところ、ここでも4つの因子が抽出された。第1因子は「k 被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「i 被害者は、実名よりも匿名による報道が多い」「j 被疑者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」「h 被疑者は、実名よりも匿名による報道が多い」「m 被害者のプライバシーや人権に配慮している」「l 被疑者のプライバシーや人権に配慮している」から構成される“プライバシーに関する意見”である。第2因子は、「b 事実を正確に伝えている」「a 自ら（あなたご自身）が知りたい事柄を伝えている」「d 事件の問題点や背景にせまって報じている」「f 警察など公的な発表にもとづく報道をしている」から構成される“事実報道に関する意見”、第3因子は「n 幼児虐待報道は父親（継父含む）に厳しい」と「o 幼児虐待報道は母親（継母含む）に厳しい」から構成される“被疑幼児の保護者（父母）にかかわる報道姿勢”、第4因子は「g 独自取材による報道が少ない」「e 容疑者を犯人と決めつけている」「c 事件が興味本位で伝えられている」「p 社会全体の治安悪化を感じさせる」報道についての“報道姿勢、治安悪化の認知”となる（表6参照）。

#### （４）事件別にみた報道への意見

それぞれの事件報道に対する意見の平均スコアに着眼すると、次のような特徴があげられる。殺人事件では、「事件が興味本位で伝えられている」（0.74点）、「社会全体の治安悪化を感じさせる」（0.65点）、「容疑者を犯人と決めつけている」（0.62点）、「独自取材による報道が少ない」（0.49点）、「被害者の家族や知人は、実名よりも匿名による報道が多い」（0.42点）、「警察など公的な発表にもとづく報道をしている」（0.41点）という意見でプラスのスコアが高く、「被害者のプライバシーや人権に配慮している」（-0.42点）についてはマイナスの評価となる（表1参照）。

性犯罪事件については、「事件が興味本位で伝えられている」（0.74点）、「社会全体の治安悪化を感じさせる」（0.68点）、「容疑者を犯人と決めつけている」（0.54点）、「独自取材による報道が少ない」（0.49点）のスコアが高く、「事件の問題点や背景にせまって報じている」（-0.21点）はマイナス評価となる（表3参照）。

幼児虐待事件については、「社会全体の治安悪化を感じさせる」（0.63点）、「事件が興味本位で伝えられている」（0.46点）、「容疑者を犯人と決めつけている」（0.46点）、「警察など公的な発表にもとづく報道をしている」（0.45点）、「独自取材による報道が少ない」（0.41点）でプラスのスコアが高い（表5参照）。

このことから事件報道に共通しているのは、「事件が興味本位で伝えられている」「社会全体の治安悪化を感じさせる」「容疑者を犯人と決めつけている」「独自取材による報道が少ない」の4つの意見といえる。そのうち、「社会全体の治安悪化を感じさせる」はすべての事件で0.6点を超えて高い。この意見は、報道の内容に直接かかわる意見ではないが、人びとは報道によって、社会の治安悪化を感じているといえる。なお、平均スコアが高い意見が多いのは、3つの事件のうち殺人事件である。殺人事件では、被害者の実名・匿名報道やプライバシー・人権についての意見も多い（表1参照）。

#### （５）性別による報道の違いとプライバシーに関する報道

犯罪報道について全体の49.8%は、被疑者や被害者の性別による報道の違いを感じたことがあると回答している。そこで、どのような報道のときに性別による報道の違いを感じたのか、印象に残っている報道や具体的な報道内容などを自由に記述してもらったところ、どちらかの性別に偏る報道の違いではなく、個々の事件報道について、ケースバイケースで性別による報道の違いを感じていることがわかる。受け手の性別による報道の違いに関する意見についての考察・検討については次稿に譲る。

次に、事件の被疑者・被害者の個人的な情報やプライバシーに関する報道については、「被害者の個人的な情報やプライバシーについて報道する必要はない」が44.5%で最も多く、以下、「事件の背景を知るうえで必要である」（34.3%）、「事件について報道するのに被疑者について詳細に伝えることは必要である」（30.8%）、「事件の詳細な内容を知るうえで必要である」（27.1%）、「被疑者の個人的な情報やプライバシーについて報道する必要はない」（24.8%）と続く。事件の背景や詳細な内容を知る上で必要であるという意見もあるものの、受け手にとっては、被害者・被疑者の個人的な情報

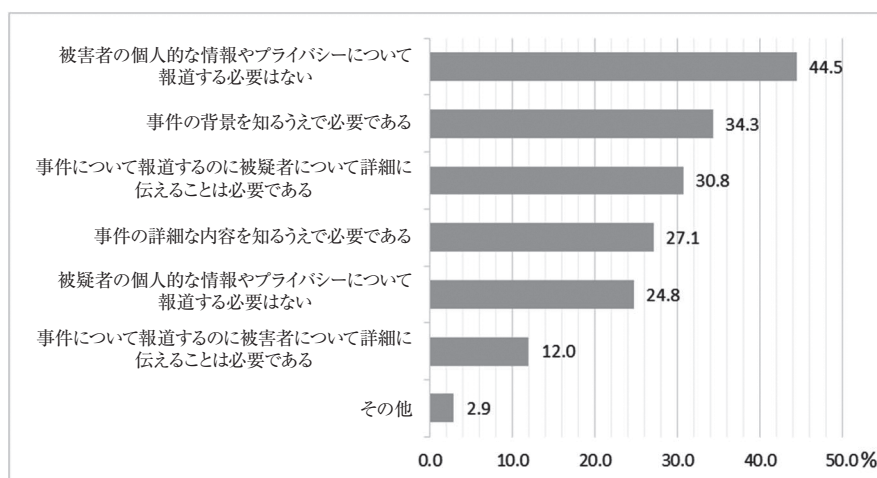


図1 被疑者・被害者の個人的な情報やプライバシーについて報道することについて (MA)

やプライバシーについて報道する必要はないという意見が多いことがわかる (図1 参照)。

## 4. 分析のまとめ

3つの異なる事件報道について、受け手の意見を分析した結果、共通して多いのは人びとが事件報道から事件や社会を認知することで、社会の治安悪化を感じることであった。事件報道に関する意見では、興味本位による事件報道、容疑者の犯人視報道、独自取材報道の不十分さを指摘するものがあつた。また、事件の被疑者・被害者の個人的な情報やプライバシーに関する報道については、事件の背景や詳細を知るうえで必要であるという意見がある一方で、個人的な情報やプライバシーについて報道する必要はないという意見も多い。

今回の事件報道についての意見は、筆者らが事件報道に対して肯定・否定の評価を下すものではない。報道の受け手は、プライバシー、事実報道、報道姿勢に関する視点を持って、事件の報道を受容していると判断することができよう。

## 5. おわりに

犯罪報道に関する問題は、報道される者の人権やプライバシーという観点から議論されてきたが、過去の報道と比較すると、現在の犯罪報道の傾向として、個人情報およびプライバシーに配慮した報道がなされてきている。一方で、殺人事件の被疑者、被害者の多くは一般の市民でありながらも、個人情報およびプライバシーが暴かれやすい傾向は依然変わらないという知見も得られている (島崎哲

彦ら2012)。こうした現況において、受け手である読者、視聴者が犯罪事件の報道をどのように受容しているかを知ることは、犯罪報道について実証研究を踏まえた議論を行うにあたり重要な手続きであると考えられる。本研究において、引き続き分析を行っていききたい。

他方、本研究とジェンダー問題との関わりを述べれば、社会構築主義（Ibarra, P.R. & Kitsuse, J.I. 1993）の観点からみると、犯罪報道を取り巻くジェンダー問題は、報道される内容と受け手との相互作用によって性規範を補強したり、新たに産出する可能性を孕む。Van Zoonen（1991）を引くまでもなく社会規範の産出に参与するマス・メディアという視座から犯罪報道を分析することも、多角的な犯罪報道研究につながるだろう。これについても今後の課題としたい。

#### 《引用文献》

- 伊藤詩織（2017）『Black Box ブラック・ボックス』文藝春秋社
- 大谷奈緒子・四方由美・川島安博・小川祐喜子・川上孝之（2015）「時間・空間フレームにおける犯罪報道研究」『東洋大学社会学部紀要』第53-1号：pp.31-46
- 大谷奈緒子・川島安博・小川祐喜子・川上孝之・松本憲始・福田朋実（2016）「犯罪報道の評価と犯罪不安感」『東洋大学社会学部紀要』第54-1号：pp.57-68
- 小林美佳（2008）『性犯罪被害にあうということ』朝日新聞社出版
- 阪口祐介（2008）「メディア接触と犯罪不安：『全国ニュース』と『重要な他社への犯罪不安』の結びつき」『年報人間科学』29-2：pp.61-74
- 四方由美・大谷奈緒子・北出真紀恵・小川祐喜子・福田朋実（2018）「犯罪報道の共起ネットワーク分析（1）」『宮崎公立大学人文学部紀要』第25巻1号：pp.63-80
- 四方由美（2014）『犯罪報道におけるジェンダー問題に関する研究 ジェンダーとメディアの視点から』学文社
- 島崎哲彦・大谷奈緒子・小川祐喜子・伊達康博・柳瀬公・福田朋実・赤尾光史・四方由美・川上孝之（2012）「犯罪報道における被疑者および被害者の実名とプライバシーの取り扱い—明治期から現代までの変遷と問題点に関する実証的研究—」『東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報』第9号：pp. 3-15
- 牧野智和（2012）「犯罪報道研究の現状と課題」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊』20号-1：pp.13-24
- Ibarra, P.R. & Kitsuse, J.I. (1993) "Vernacular Constituents of Moral Discourse: An Interactionist Proposal for the Study of Social Problems." *Reconsidering Social Constructionism*, edited by J.A. Holstein and G. Miller. Hawthorne, NY: Aldine de Gruyter. (平英美（2000）「道徳的ディスコースの日常言語的な構成要素 相互作用論の立場からの社会問題研究のための一提案」平英美・中河伸俊編『構築主義の社会学 論争と議論のエスノグラフィー』世界思想社)
- Van Zoonen, L. (1991) *Feminist Perspectives on the Media*, in Curran and M. Gurevitch (eds.) *Mass Media and Society*: Edward Arnold. (= 平林紀子訳 (1996) 「メディアに対するフェミニズムの視点」児島和人・相田敏彦監訳『マス・メディアと社会 新たな理論的潮流』勁草書房)

【Abstract】

## Audience Evaluation of Criminal Reports

Naoko OTANI  
Yumi SHIKATA  
Makie KITADE  
Yukiko OGAWA  
Tomomi FUKUDA

The objective of this paper is to research how audiences evaluate criminal reports in “An Empirical Study on Gender Issues in Criminal Reports” through an online survey May, 2018. Little research has been done on the subject. Our research group has been studying how privacy and personal information is dealt with in criminal reports in the Japanese media, based on empirical analyses from the viewpoint of gender sensitivity. In this research, we will deal with a murder case as well as a sex crime case and a child abuse case, where gender issues were involved. In addition we will survey gender differences in the suspects and the victims’ reporting in criminal reports.